

# 平成28年度決算報告

## 一般会計

教育や福祉、道路整備などの行政の基本的な会計

<b>歳入</b>
53億6,177万円
平成27年度 58億4,790万円
対前年度比-4億8,613万円
私たちの生活に置き換えると…

町税	使用料・手数料 財産収入など	地方交付税など	国・県補助金など	町債
6.9% 3億6,933万円	12.3% 6億5,940万円	48.3% 25億8,852万円	22.8% 12億2,093万円	9.8% 5億2,360万円
★年収 自分たちで賄えるお金		★親からの仕送り 全国どこに住んでいても暮らすことができるようにするためのお金	国・県から目的に対して補助されたお金	★ローン 国や銀行からの借入

<b>歳出</b>
49億740万円
平成27年度 52億8,917万円
対前年度比-3億8,177万円
私たちの生活に置き換えると…

人件費	物件費	扶助費	公債費	補助費など	繰出金	積立金	建設事業(災害含む)・維持補修費等	次期繰越金
15.8% 7億7,441万円	14.3% 7億133万円	6.1% 3億100万円	8.6% 4億2,163万	13.8% 6億7,516万円	10.2% 5億1万円	5.1% 2億4,909万	26.2% 12億8,478万円	
★食費 議員報酬や職員給与・手当など	★光熱費 消耗品・光熱水費など	★医療費 など	★ローンの返済	★町内会費 嶺北広域行政事務組合負担金・出資金など	★仕送り 特別会計への繰出金など ※後期高齢者医療負担金含む	★預貯金 基本積立	★車の購入費・家の修繕費 道路・給水施設・建物などの整備	

(平成28年度 地方財政状況調査より)



## 平成28年度決算に見る台所事情

歳入を見てみると、町税や財産収入など町が独自で確保できた財源は、全体の約19%で、残りは全て国や県からの仕送りと町債(ローン)となっています。

なかでも歳入全体の約48%を占める「地方交付税」は、配分の基準となる人口が減少しているため、今後の増加は期待できず厳しい状況が予想されます。歳出を見てみると、過去に行った建設事業などのローン返済である公債費が歳出全体の約9%をしめています。

また普通建設事業は、道路橋梁等の改良及び修繕工事をはじめ、簡易給水施設整備や、体験型教育旅行関連施設の整備等、歳出全体の約26%となっています。

この結果、町の台所事情は年収の約4倍の親からの仕送りで1年間の生活を賄っていることになります。

## 健全化判断比率 (財政の健全度)

健全化判断比率	大豊町	早期健全化基準	
実質赤字比率	—	15.00%	⇒一般会計の赤字額の程度を表しています。
連結実質赤字比率	—	20.00%	⇒全会計の赤字額の程度を表しています。
実質公債費比率	7.4%	25.00%	⇒町が返済した借金の返済率を表しています。
将来負担比率	—	350.00%	⇒町が将来負担する可能性がある実質的な負債が、どのくらいあるかを表しています。

☆一は、算定の結果「実質赤字がない」ことを表しています。

資金不足率	大豊町	早期健全化基準	
簡易水道事業特別会計	—	20.00%	⇒企業会計の悪化の度合いを表しています。

☆一は、算定の結果「資金不足がない」ことを表しています。

## 平成28年度の主な事業

- ◇体験型教育旅行関連施設整備事業  
……………1,610万円
- ◇橋梁長寿命化修繕事業……………2,943万円
- ◇和田地区簡易給水施設整備事業  
……………6,083万円
- ◇町道改良・修繕事業…1億5,136万円
- ◇がけくずれ住家防災対策事業  
……………3,278万円

## 積立基金 (町の預貯金等) 残高

財政調整基金	5億3,058万円
減債基金	9億5,667万円
福祉基金など	14億285万円
計	28億9,010万円

※定期運用基金や特別会計の基金は含みません。(平成29年5月31日現在)

## 特別会計 特定の収入でその支出が賄えるもの

会計名	歳入	歳出	歳入のうち一般会計からの繰入金
国民健康保険	8億4,800万円	8億4,740万円	7,094万円
簡易水道事業	1億5,453万円	1億5,452万円	7,040万円
介護保険	6億8,087万円	6億6,207万円	1億1,695万円
後期高齢者医療	9,416万円	9,335万円	4,703万円
計	17億7,756万円	17億5,734万円	3億532万円

※平成28年度は4会計合わせて約3億円を繰り入れ

平成28年度の大豊町の決算について報告します。皆さんの納めた税金が、1年間どのように使われたか、確かめてみましょう。